

## 家庭という温もりを

厚生労働省が「児童養護施設等の小規模化及び家庭的擁護の推進」に取り組むにあたり、施設養護はできる限り家庭的な養育環境の形態に変えていく必要があるとされています。「ファミリーホーム」は要保護児童を養育者の家庭へ迎え入れて家庭的な養育をする小規模施設です。法人や個人が事業者として行う事ができ、養育者には経験や能力などの要件があります。



### <こどもを育てる>

新松戸七丁目の家は住宅街の一角に佇む一軒家で、赤塚夫妻と娘さん二人を中心にスタッフ6名ほどが調理や保育を分担しながら運営している「ファミリーホーム」です。養育しているのは主に乳幼児6名で、生後間もない赤ちゃんもいます。小さい子が危なくないよう24時間常に2名以上の養育者が側に付いている体制を整えています。1階中央のダイニングから2階までは広く吹き抜けていて明るい光が差し込みとても解放感がありました。リビングにはベビーベッドが6台並び、おむつやタオルなど一人一人の棚に分かれて整理され、静かで快適な空間となっています。添い寝ができる和室の部屋もありました。2階に上がると吹き抜けを利用して、小さくてかわいい洗濯物が長い物干し竿にたくさん干してありました。洋室が3部屋ありそのうちの広い部屋に助成金を活用して購入されたエアコンが取り付けられていました。この部屋は寝具用具等の保管と会議室として利用されています。

### <親も育てる>

家庭的な養育が必要と言われている4万5千人を超す要保護児童達のほとんどが家庭的ではない施設で育てられています。里親委託がなかなか伸びない現状に、新松戸七丁目の家では里親を増やすための活動として会議室で里親研修（妊婦研修のようなプログラム）等を行なっています。沐浴、母子手帳の見方、寝かしつけのコツなど子育ての情報を伝え赤ちゃんを受託できる状態になってもらうお手伝いです。特に2階の洋室2部屋を使った夜中の乳幼児の世話を学べる宿泊研修は他にはない画期的な取り組みとなっています。見知らぬ大人がおおぜい出入りするとそこで生活している乳幼児たちにストレスを与えることになる為、子どもたちのいる部屋を通らずに行ける2階の会議室にエアコンを導入できた事はとてもありがたいとおっしゃっていました。組合員からの応援メッセージにも支えられているとの事でした。

### <社会で守る>

日々の乳幼児の養育や保護はとても忙しく大変なものです。夜の10時頃に保護受け入れの依頼を受けたり、警察が介入する案件では深夜2時を回ることもあるとの事でした。労働環境について赤塚さんはとても心配していましたが、外部監査の時にスタッフのみなさんは職務に自主性とやりがいを持っていると答えたそうです。常に「自分の子どもを預けたいと思うか」という意識で施設の運営を心掛けているそうで、こどもの事を第一に考え家庭的な温もりを大切にしている事がとても良く伝わりました。養育するこどもは年齢も状況も様々で、1日だけの子や1年以上居る子もいますが基本的には短期間との事です。しかしこの環境で過ごした記憶はきっとこども達のこころの成長や安定におおきな影響を与えていると感じました。家庭的な養育にとどまらず里親や実親



の支援も行う事は、施設を出たこども達の幸せな家庭での暮らしにつながっているようです。新松戸七丁目の家はプライバシーの問題や安全面を考慮して情報を公にはしていないようですが、社会に必要な存在でありこれからも地域で支えていく事が大切だと思いました。